

北関東防衛局広報

編集企画・発行

防衛省北関東防衛局総務部報道官

さいたま市中央区新都心2-1

<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>



新年を迎えて

防衛省北関東防衛局長 池部 衛



北関東防衛局広報紙をご覧になっている皆様、新年あけましておめでとうございます。

新しい一年を迎えるに当たって、昨年あった出来事を振り返り、新たに今年の抱負を心に刻まれた方も多いのではないかと思います。

昨年は「チェンジ」の1年であり、日本では民主党政権・鳩山内閣、海の向こうの米国では民主党・オバマ

政権が誕生し、行政的にも経済的にも大きなターニングポイントの1年でありました。

北関東防衛局では、3年前の平成19年9月に東京防衛施設局と装備本部東京支部が合体し、新たに北関東防衛局が発足。各々の従来業務のほかに防衛行政の地方での拠点として2年4ヶ月。徐々に新しい組織も落ち着いてきた1年だったのではないのでしょうか。例えば、地方協力本部と協力して行われた防衛白書説明、皆さんの関心の高い最新情報等を取り上げた防衛問題セミナー、基地周辺の子供さんにも協力していただいた絵画展、住民の方々に大好評だった日米ジョイントコンサート、各地で開催されたイベント・各種訓練にも参加、等々。

北関東防衛局の業務は、これら以外にも基地対策業務、調達業務、防衛施設管理業務、等々、数え切れないほど多種多様であります。いずれも防衛関係者のみならず、防衛施設周辺の方々から必要とされるものばかりであり、遣り甲斐のあるものです。

今年も約500名の職員が一致団結し、皆様のご期待に添うよう努力して参ります。引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

庚寅 歳旦

各米軍基地司令官と意見交換

レン在日米軍司令官を表敬訪問



平成21年12月4日(金)、池部局長は横須賀基地に在日米海軍司令官レン少将を表敬訪問しました。その際に池部局長からは、米空母艦載機の着陸訓練については、厚木飛行場や横田飛行場で実施した場合の周辺への影響を考慮し、極力、硫黄島で実施するよう申し入れるとともに、一昨年の秋に実施された訓練においては、当局から職員約30名が支援した例を示しつつ、今後とも米海軍と協力のうえ、円滑に訓練が実施されるよう当局としても努力することを伝えました。

また、レン少将から基地についての正確な情報提供が一般の方々との相互理解を深めるうえで重要であるとの発言があり、これに対して池部局長からも全く同感である旨応じました。

ヒックス第374空輸航空団司令官との懇談

平成21年12月1日(火)、池部局長は横田基地でヒックス第374空輸航空団司令官と懇談しました。

この懇談で、諸懸案事案等について意見交換を行うとともに、横田基地に対する周辺住民からの苦情についても池部局長よりヒックス司令官に対し、基地周辺住民の苦情に真摯に対応することが必要であることを強く申し入れました。

また、横田基地の安定的な使用のためには、基地周辺住民の米軍に対する理解が不可欠であることから、日米交流事業を通して基地周辺住民と横田基地の軍人及びその家族が直接的に交流を図るために更なる米側の協力を要請しました。



ガードナー厚木基地司令官を表敬訪問



平成21年12月2日(水)、池部局長は、ガードナー米海軍厚木基地司令官を表敬訪問しました。

池部局長からガードナー司令官に対し、米空母艦載機が深夜に厚木飛行場に帰投する場合は、日米合同委員会合意の航空機騒音規制措置を遵守し、緊要と認められる場合を除き、厚木飛行場への帰投時間を繰り上げる努力をする等、周辺住民に与える騒音の影響を出来る限り最小限にとどめるよう申し入れました。会談は終始和やかにおこなわれ、日米間の意思疎通を図る上で有意義な会談となりました。

日米交流合同音楽会～心を結ぶMelody Line～

北関東防衛局は、横田基地の設置・運用について、周辺住民の皆様
に理解して頂くとともに、地域のスポーツ・文化等の地域振興に寄与し、
横田基地周辺住民と米軍人等との相互理解を深めることを目的として、
昨年度に引き続き日米交流合同音楽会を開催します。皆様お誘い合
わせの上、ご来場下さい。

タイトル:「日米交流合同音楽会～心を結ぶMelody Line～」

日 時:平成22年1月31日(日)

12:30開場／13:00開演(入場無料)

場 所:福生市民会館大ホール

出 演:米空軍太平洋音楽隊、横田ハイスクール

都立福生高等学校

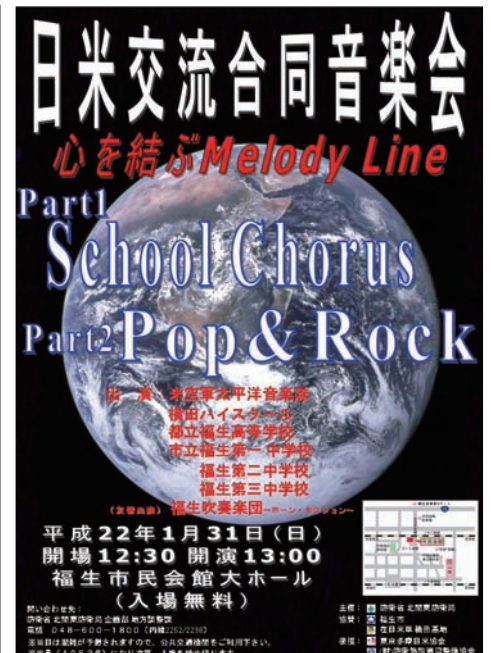
福生市立福生第一中学校、福生第二中学校、福生第三中学校

(友情出演)福生吹奏楽団～ホーン・セクション～

問い合わせ先:

防衛省 北関東防衛局 企画部 地方調整課 地方協力基盤整備室

(電話)048-600-1800(内線2252/2238)



合同音楽会プロジェクト本格始動！！

昨年3月、北関東防衛局では初の試みとして「日米交流合同音楽会」を福生市民会館で開催し、満員の約1000名が訪れ、大盛況でした。2回目の今回は、来たる1月31日に同会場において開催します。前回は吹奏楽とポップスの共演でしたが、今回は合唱とロックを融合させ、昨年以上に盛り上がるような内容を予定しております。是非ご期待下さい。

11月中旬に関係者の全体会議を皮切りに事前準備が本格的に始動しました。会議は今後も複数回開かれ、その中で出演団体の代表者の方々によって演奏楽曲の選別、練習日程の調整、舞台設営や演出などに至るまで、音楽会の基本計画が順次決められていきます。一方、米側ハイスクール音楽科講師が、出演する地元の中学校を訪問し、授業時間や放課後を使って、英語の歌詞の発音方法から課題曲の合唱など、日本側の生徒を指導しました。生徒達が懸命に取り組む様子から、本番に向けての意欲を伺い知ることができました。

また、学校関係者だけではなく他の出演団体の関係者も、日米で共演するに当たり独自に調整を始めるなど、日米交流に積極的に取り組まれています。

当局では、「日米交流合同音楽会」を横田基地周辺住民の方々と横田基地に勤務する方々やその家族との更なる友好のためにも大変意義深い事業として位置付けております。

日米で交流し、一つのものを創るすばらしさを共に体感して頂くためにも、是非、福生市民会館へ足をお運び下さい。

きっと“Melody Line”があなたの心にも結ばれることでしょう。

関係者による
全体会議



米側講師
指導風景



小学生絵画展入賞者の体験搭乗



第12旅団長の堀口陸将補と小学生絵画展入賞者(本人・家族)

平成21年12月12日(土)、小学生絵画展入賞者(本人・家族)のCH-47ヘリコプターへの体験搭乗を陸自・相馬原飛行場で行いました。

この企画は、昨年5月、当局が主催した小学生絵画展において、入賞した小学生とその御家族に自衛隊のCH-47ヘリコプターに搭乗して頂き自衛隊の任務についてより関心を深めてもらおうと計画したもので、当初、同年8月に予定していましたが、天候不良から延期となっていたものです。

当日は、天候も良く、風も穏やかで体験搭乗するには申し分のない日となり、参加された入賞者7名とその家族11名の計18名(入賞者1名は所用のため辞退)の方々は、ヘリコプターが垂直に上昇していくと大きな歓声を上げて喜んでいました。

体験搭乗した家族の方からは、「この賞を頂くまでは、我が家の上空も飛行されるので、正直いい風にはとらえていませんでしたが、少しでも活動やそのもののあり方がわかり、今は守っていただいている安心感があります。これからも広くみなさんに伝わって欲しいとつくづく感じました。ありがとうございました。」との感想を頂きました。

今後とも、北関東防衛局は自衛隊と協力し、施設周辺の自治体の方々に、国民の安全・安心を守るための防衛施設の存在について理解が深まるよう努めていきたいと考えています。



入賞者らを乗せて飛び立つCH-47

海上自衛隊次期回転翼練習機初号機納入式典



平成21年12月2日（水）、東京ヘリポート内格納庫において、ユーロコプター・ジャパン株式会社主催の海上自衛隊次期回転翼練習機TH-135型初号機納入式典が行われ、当局から、調達における監督・検査を担当した調達部宮田次長、塚田装備第2課長が出席しました。

当該ヘリコプターは、現在、海上自衛隊がパイロットの教育用として使用しているOH-6型回転翼練習機の後継機として調達が進められていたものです。

式典では、最初に飛行の安全を祈願して神事が執り行われた後、防衛省へ目録が手渡されました。

この後、当該ヘリコプターは性能試験を経て海上自衛隊教育航空集団隷下部隊に配置され、海上自衛隊航空部隊の隊員の育成に貢献することとなります。

新しいヘリコプター
で訓練を頑張るね。



第32回 防衛問題講話会

平成21年12月21日(月)、在日米軍横田基地第374空輸航空団広報部長のクリストファー・ワット少佐をお招きして、「アフガニスタンでの体験談」を講演して頂きました。

ワット少佐は、イラクをはじめとして紛争地域の経験が豊富で、その中でもアフガニスタンで勤務した体験を私達に語ってくれました。ワット少佐は、「アフガニスタンの人々もタリバンやアルカイダのいない平和を求めている。もう一度アフガニスタンに派遣されれば喜んで現地の人達のために貢献したい」と話されました。また、「日本の人道支援がイラクの復興にも貢献しており、イラクが復興すれば、イラクの子供達の目は輝きを取り戻せる」と話されました。

今回の講演で、国際社会の一員として自衛隊の活動は重要なものであることをあらためて認識したところです。



講演するワット少佐



防衛閑話(事象の相対性)

産経新聞の「次代への名言」というコラムには、時々はっとさせる含蓄のある名言が登場しますので、いつも注意して見ています。

昨年4月には、明治時代の草創期の新聞人である陸羯南(くがかつなん)の次のような言葉がでていました。「おおよそ古より、国を誤る者は愚人にあらずして、才子なり」コラムの解説によれば、陸羯南は、応仁の乱になすすべもなく、混乱の時代を招いた文化人、室町幕府8代将軍、足利義政を評したところで、この言葉を述べているそうです。陸羯南の言わんとしたこととは異なるかもしれませんが、頭の良い才人は問題に直面した時に、弁舌巧みにその場しのぎの解決で誤魔化することが可能で、結局は根本的な解決ができないという風に解釈も可能です。

昨年12月のコラムには、映画「男はつらいよ」シリーズの主演である渥美清さんの次のような言葉がありました。「心や体に弱いところのある人間は、他人の痛みがわかる。だからいい」渥美清さんは25歳の頃に、当時の難病・肺結核に罹患し、片肺を取る大手術を受け、2年間に及ぶ療養生活を送ったそうです。渥美清さんの言葉は、おそらく2年間にわたる辛い療養生活が将来の大俳優、渥美清、すなわち車寅次郎のあの優しさを産み出したのだということを言わんとされたようです。

私はこれら二つの言葉はとても含蓄のある名言だと思うのですが、両者にはある種の共通点があるように考えます。それは、長所とか短所あるいは幸運とか不運というのは、相対的なものであって、絶対的なものではないということです。最初の陸羯南の言葉は、世の中での評価の高い「才子」こそが国の方向を間違えるというものですし、渥美清の言葉は、一見不運だと思われる事柄に将来の発展の基礎があるというものです。人間はその時々々の幸せや不幸に一喜一憂しがちですが、古来、「人間万事塞翁が馬」と言われるように、もっと長い物差しで世の中を見るべきだと感じます。因みに古代ローマの五賢帝の一人のマルクス・アウレリウスは「自省録」の中で、「事物は魂に触れることなく外側に静かに立っており、煩わしさは、ただ内心の主観からくるものに過ぎない」と述べています。喜びとか悲しみは外で起きた事柄を自分の内心がそう捉えるから喜びや悲しみになるのであって、外で起きる事柄はそれ自身は良いことでも悪いことでもないということです。